

BPW UN—CSW インターン派遣事業

第 58 回国連女性の地位委員会 インターン報告書



2014年3月10日～3月21日

特定非営利活動法人

日本BPW連合会

第58回国連女性の地位委員会

1. 会期 2014年3月10日(月)から21日(金)
2. 主要議題
ミレニアム開発目標(MDGs)の実施状況検証と今後の取組
MDGs 8項目とは
貧困と飢餓、教育(初等教育)、ジェンダー平等、乳幼児死亡率、妊産婦の健康、AIDs、環境、協力体制
3. CSW 本会議場で行われたこと
 - ・各国代表の演説 : 151ヶ国が発言、日本は石原政務官が
 - ・採択された決議 : 4件、日本も災害に関する決議を提出
 - ・合意結論の採択 : 日本も自然災害で提案
 - ・専門家によるパネルディスカッション
4. 各種イベント
 - ・パラレルイベント=341件
 - ・サイドイベント=131件
5. 日本のイベント
 - ・サイドイベント=災害の被害削減と女性のエンパワーメント
(BPWを含むNGO 3団体)
 - ・パラレルイベント=女性のエンパワーメントと日本文化
(BPW 東京クラブ)

ご挨拶

特定非営利法人日本 BPW 連合会
理事長 名取 はにわ

2014年3月に開催された国連の第58回女性の地位委員会へ、日本 BPW 連合会は、今年も5人のインターンを伴って出かけた。

国連女性の地位委員会は国連加盟諸国の会議であるため、国連・経済社会理事会の諮問的地位を占める BPWI といえども、国連本部に入るための通行証の取得は非常に限られている。1団体20枚。それを世界中から参加する BPW の会員が求めるのだから、配分は大変である。

しかしこの時期の NY は、毎年多数のサイド・イベントやパラレル・イベントが開催され、世界各国から女性問題に関心を持つ女性たちがやってくる。

政府間会議が始まる1日前に NGO のための説明会が開催され、会費を払うと、会期中の様々なイベントのプログラムを記載したハンドブックを入手することができる。参加者はこのハンドブックを片手に、好きなイベント会場を回るのだが、CSW の会期中、ほぼ毎日、国連本部ビル近くの会場で、時には本会議の議長団からも参加して議事の進行や議論の様子などについてのブリーフィングが行われる。

かつて、北京会議や CSW の会議に、日本政府代表団の一人として参加してきたが、今回は NGO の一人としての参加だった。議論の中で、北京宣言や行動綱領がレガシーだといわれるのを聞くと、すでに19年の歳月が経ち、それだけ年を取ったことを実感した。そして周りを見回すと、北京会議の時は若かった女性たちが相応の年齢になって集まっていた。

その中であって、われわれのインターンたちは実に行動的にそれぞれの興味と関心が赴くままに存分に NY を駆け回っていた。

日本の NGO が日本政府と「災害とジェンダー」についてサイド・イベントを行ったときには、平松昌子コーディネーターを助けて大活躍してくれた。

日本 BPW 連合会が、歴史上はじめてもったパラレル・イベントにも参加し、写真を撮るなどの協力をしてくれた。

日本の若い女性たちが、国連女性の地位委員会及びそれを取り巻く様々なイベントで何を感じ、考えたのか、どうぞ楽しんでこの報告を読んでいただきたい。

第11回インターン派遣事業報告書 目次

理事長挨拶 …名取はにわ

インターンのレポート

家田菜穂子

大濱彩花

金村はや

小林千紘

林 乙羽

若者の意識を調べる …家田菜穂子

Life in New York ~ 理想と現実 …林 乙羽

第58回国連女性の地位委員会で議論されたこと

日本 BPW 連合会企画委員長 平松昌子

第11回インターン派遣事業について

日本 BPW 連合会国際委員長 花崎正子

編集後記

COMMISSION ON THE STATUS OF WOMEN CSW58 REPORT



第 11 期 CSW 派遣インターン報告書

このたびは、ニューヨーク 国連本部での女性の地位委員会 派遣メンバーに選出くださりありがとうございました。3 月 9 日（金）の NGO CSW Forum CONSULTATION DAY を皮切りに 3 月 21 日（金）の閉会までの間、おかげさまで充実した日々を過ごすことができました。貴重な機会を頂戴しましたこと、一同大変嬉しく思っております。簡単ではございますが、下記、報告書とさせていただきますのでご一読いただければ光栄です。

約 2 週間の滞在中、国連本部内での活動、日本政府代表部による公式説明会への参加、BPW インターナショナル夕食会と、本事業以外では経験することができない場で経験を積み、メンバーそれぞれが今後の糧となる国際的な感覚、知見に恵まれ、生き方を見直す契機を手にししました。なにより、BPW について学びを深め、引率くださった諸先輩方と時間、問題意識を共有できたことが、私達にとってかけがえのない財産です。暖かく見守ってくださる皆様のもと、少しでも社会に貢献できるよう、引き続きヤング BPW のメンバーとして研鑽を重ねて参りますので、ご指導のほど頂戴できれば幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

UN CSW58 インターン 一同

参加者一覧（計 5 名）

- 家田 菜穂子： 名古屋大学大学院 生命農学研究科
- 大瀨 彩花： ORDERMADE LIFE DESIGN 代表
- 金村 はや： ロンドン大学ゴールドスミス大学院卒
- 小林 千紘： 津田塾大学 学芸学部国際関係学科3年
- 林 乙羽： Lush Oxford Sales Assistant / Enishi Japan 代表

レポート概要

- プロフィール ○参加目的・背景 ○全体の感想 ○特に興味を持ったイベント
- 今後の抱負

名古屋大学大学院 生命農学研究科 家田 菜穂子



学部時代にブリストル大学（イギリス）へ 1 年間の交換留学し、卒業後に大学院へ進学。哺乳類の繁殖を制御する脳内メカニズムを研究する傍ら、タイ、カンボジア、ベトナムなど東南アジアでの調査を通じて発展途上国の農業・農村開発への貢献を目指している。現在博士課程 2 年。

参加目的・背景

私は将来、国際機関で働きたいと考えているため、今回のインターンシップの存在を知ってすぐに応募させていただきました。「国連」という言葉に馴染みはあっても、例えば MDGs のような課題設定における国連の役割についての具体的なイメージは全く湧かなかったので、国連の機能をもっと良く勉強したいと思いがりました。また、世界各国から集まる NGO が女性問題について議論する場である CSW フォーラムで、より広い視野を身に付けたいと思ったことも参加した理由のひとつです。CSW フォーラムに参加することで、世界では今、何が問題となっており、それがどのように解決されようとしているのかを勉強して今後の課題設定に活かしたいと考えました。

全体の感想

CSW の進捗状況を知り、NGO フォーラムに参加することで、今、世界で最も重要視されているジェンダー問題は何かを俯瞰的に学ぶことができたことが最も大きな収穫でした。また、国連、各国政府、各国 NGO の役割がそれぞれ分担されていることと、その必要性も学ぶことができました。

参加するまでは、本やインターネットでよく取り上げられるような問題、例えば周産期死亡率の高さや、女兒への教育における差別などが主に取り上げられるのだろうと予想していました。しかし実際には、これらの問題はこの 10 年間で、数字の上では少しずつ改善されてきていることが報告されていました。国連の機関や NGO、各国の政府の活動が積み重なることで、本当に世界は良くなっていくものなのだと感じる事ができ、良い意味で予想を裏切られたと思っています。

一方で、“（reproductive health は改善されてきているが）それだけではなく

reproductive rights も保証するべきである” という議論や、伝統的な family と今後肯定されていくべき family の定義の違いなどが新たな話題として取り上げられていました。宗教や文化の違いを背景とする意見の相違は今回の CSW でもなかなか埋まらず、毎朝の NGO ブリーフィングで進捗状況を聞きながら、私自身も非常にもどかしく感じました。このような問題点は、一度の会議で話し合っ解決されるものではなく、毎年重ねられる決議によって、少しずつ「世界の意見」が前に進んでいくものだとということがよく分かりました。

Zero Draft を用意する UN Women、それをもとに交渉をする各国の政府代表部、さらに民間の代表として政府に働きかける NGO のそれぞれが意見を交わす場を目の当たりにできた今回のインターンは、他では得難い貴重な経験でした。



写真 1: 国連本部の外観



写真 2: CSW 本会議の傍聴席の様子

特に興味を持ったイベント

私はこれまでに、主に東南アジアの農村を中心に、畜産分野でのフィールド調査をした経験があります。そのため、the World Farmers' Organization (WFO) と the Global Forum on Agricultural Research との共催パラレルイベント “Empowering Rural Women Through Agricultural Innovation” は、最も興味を持って参加しました。イベントでは、まず Mr. Carlson (WFO President) が世界の食糧生産への女性の参入や農村部の女性のエンパワーメントの重要性に関するスピーチをし、それ



写真3

に続いて、ウガンダ、アルゼンチン、ジャマイカで農業に従事している 3 人の女性が、それぞれの経験を語ってくれました。

3 人とも、現在は養蜂、肉牛の放牧、養豚をそれぞれ大規模に営んでおり、「農家さん」というよりも「経営者」らしい雰囲気とパワーを感じました。また 3 人が、穀物ではなく、養蜂や畜産で成功している点も印象的でした。穀物よりも市場価値の高い畜産や蜂蜜は、女性が自分の手で現金収入を得て、経営の規模を拡大していくために有用な農産物であると言えるのではないかと思います。

現在、世界の貧困人口の 4 分の 3 が農村部に居住していると言われていています。産業としての農業を発展させることと、女性が農業を通じて社会的な地位を向上させていくことは、農村部の貧困問題の解決に欠かすことのできない両側面であると思います。農村部の女性のエンパワーメントに畜産が貢献できることを再確認できたことは大きな収穫でした。

バングラデシュ政府、オランダ政府および HIVOS の共催のサイドイベント“Decent Work for Women: The Case for Living Wages”では、先進国から多くのアパレル企業が進出しているバングラデシュの服飾工場における労働環境問題が中心に取り上げられました。教育を受けられなかった、出産育児のために仕事のブランクが大きい等の理由で特に女性が低賃金の単純労働に搾取されやすい現状は、バングラデシュだけでなく多くの国が抱える問題です。先進国の企業が「安い人件費」を目当てに途上国に進出し続けることに対して、受け入れ国の政府がすべき対応、企業側がすべき対応について言及されました。



写真 4

その中で、企業側の代表として H&M で Senior Sustainability Specialist を務める Pierre Borjesson 氏がパネルディスカッションに参加していたことが、非常に印象に残りました。企業は、自社工場を作ることによって現地の地域社会に大きな影響を与えていることを、よく認識するべきであるという意見には、心から頷かされました。また私たち

消費者も、企業が労働者の Quality of Life を保障しているかどうか、という視点

で消費行動を見直すべきであると思います。

良い取り組みをしている企業の製品を購入することで、その取り組みを支持することもできるのだと気付くことができ、今後日本での日常生活にも新しい視点が加わりました。

写真 3: パラレルイベント “Empowering Rural Women Through Agricultural Innovation” の様子

写真 4: サイドイベント “Decent Work for Women: The Case for Living Wages” の様子

今後の抱負

CSW と NGO フォーラムに参加して最も印象に残ったのは、発展途上国と言われる国、特にアフリカからの参加者の「声の大きさ」でした。どの会場でも、アフリカ人が発言できるまで挙手を続け、自分の思いを強く主張する姿が見られました。また NGO コーカスという単位においても、アフリカコーカスは欧米コーカスと並んで活動・議論が活発で、NGO として、CSW への干渉をきちんとしていこうという強い意志が感じられました。それに比べて、アジア、特に東アジアは「声が小さい」というのが、正直な印象でした。

「私たちの国には、緊急を要するジェンダー問題がないからだろうか。」「危機感が無いから声が大きくなるのだろうか。」など、いろいろな原因を考えました。他の国に比べて、日本はやはりジェンダー問題に対する関心が薄い印象があります。しかし私たちの日常生活を見直してみると、日本にジェンダー問題が存在しないのではなく、問題を問題として提起することに対する抵抗を感じる人、現状を「仕方がないこと」「変えられないこと」と思っている人が多いことが表面上の関心の薄さに繋がっているのではないかと思います。

以上のように、日本人として日本のジェンダー問題をどう考えるか、という[内側]からの視点がより深まっただけでなく、国際社会という[外側]から見た際の、ジェンダー問題における日本の立場も学ぶことができました。特に政府代表部との共催サイドイベント “Disaster Risk Reduction and Empowerment of



Women”をお手伝いさせていただき、さらに政府代表部とのディスカッションの機会を2回も持てたことで、今回日本が提出した決議案が持つ意味と、それが他の国に与えることのできる影響を理解することができました。

今後は、今回出会えたインターンの方々と共に、日本のジェンダー格差の問題を若い人たちの間で再定義するための活動を是非立ち上げたいと考えています。具体的にはジェンダー問題に関する若者の意識調査や啓発活動を行い、将来的にはCSWフォーラムのような場で発表できればと思います。また最終的には、今回のインターンシップへの参加と、これからの活動という経験を自分自身のキャリアアップへの糧にし、将来は、やはり国際機関で働くことを目指したいと強く思っています。

ORDERMADE LIFE DESIGN 代表 大瀨 彩花

「女性の生き方を変える。時代にないものを創り出す。」を理念とするトレンドーズ株式会社にて女性起業塾 起業・キャリアプランナーとして従事。経営陣選出 全社表彰制度 MVP・新人 MVP受賞後、日本財団ヤングリーダー奨学生として慶應大学院政策・メディア研究科 社会イノベータコースへ進学。現在、クールジャパン事業の採択を受け日本版ルネサンスをテーマに古典・神道と伝統(産業・文化・芸能)を融合させた温故知新なサービス・商品を展開中。



aykaa@ordermadelifedesign.jp

参加目的・背景

目的:BPW、CSWのテーマと自身のテーマ・軸との一致、国の事業の一員として海外で仕事を重ねる中で土台となる様々な国の問題、日本の問題を学び研鑽するため。

背景:女性の生きる、働くに関する選択肢や価値観について問題意識を抱き、これまで起業という生き方を視野にいれる提案、キャリアを棚卸しし1人1人が自分らしい人生を歩むサポートに従事してきました。2013年のBPW活動方針「女性の経済的自立支援と女性の経済活動への参画推進」「女性が指導的立場に立つための教育・育成支援」は私自身の活動方針であること、BPWのビジョンに共感し、応募させていただいた次第です。

これまでの活動の中で、個人の利益と公(社会)の利益のバランスを考えたアイデアで社会貢献をすること、ソーシャルアントレプレナーの活動に関心を寄せるようになり、CSWフォーラムで集うNGOの活動を知り発信することを目的の1つとして参加しました。

全体の感想・特に興味を持ったイベント

Monday, 17 March 16:30- サイドイベント

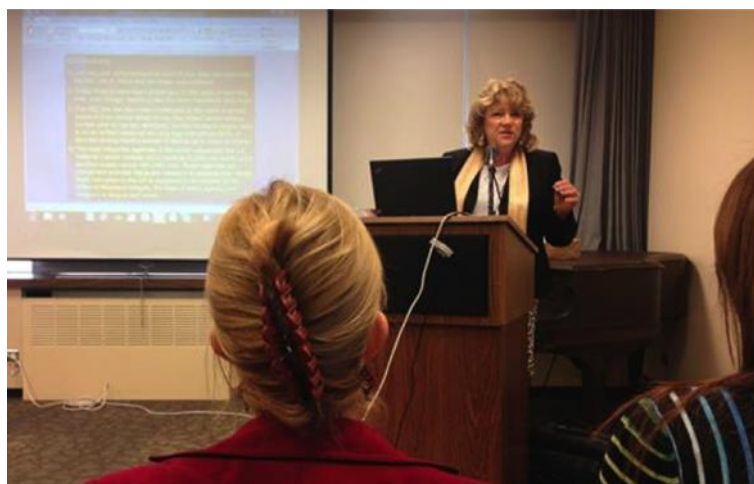
Mental Health Research on Women's Reproductive Health

国連 女性の地位委員会の合意結論4領域の1つ、リプロダクティブ・ライツ(生殖に関する権利)をテーマとするサイドイベント。公式文書には、国内法でのサービスが

許可されている場合における緊急避妊や中絶などの女性・女兒への暴力、これらに対する多部門的サービス、プログラムや対応の強化が明記されており、事前の情報共有会（協力：JAWW、城西国際大学ジェンダー・女性学研究所）で翻訳版の資料を購入したことで、理解を深め場に臨むことができました。次期以降参加する若手の皆様には一読をおすすめいたします。

ビルゲイツ財団が本問題に関連する事業、「Grand Challenges in Global Health Program」の一環として次世代避妊具開発のアイデアを募集し、研究費用として約1000万を提供することが話題となっていますが、「私の個人的な経験から」とはじまった、登壇者の性・生殖・子供に関するプレゼンテーションは写真と模型を用いており感極まるもので、共感の渦で会場が満ちあふれていました。

心の底の声を言葉にする際の聴衆への影響力、ひきこまれ共感する感覚を、身を以て学び、「ストーリーで語る姿勢を身につける」ことが、BPWのヤングメンバーとして磨き上げる能力の1つであり、CSWに派遣いただき学びとる課題の1つに違いないと感じました。



Monday, 17 March 12:30- サイドイベント

Why did advances in education & health fail to achieve better economic opportunities for MENA women

MENA (Middle East, North Africa)、アラブ諸国の女性の経済的権利、完全雇用とディーセント・ワーク、MDGsについて。All minority、new space、new agency、society、governmentと



鍵となる要素を順にあげ、議論が進んでいきました。

過去8年間の事例をもとに女性のためのインセンティブが最小限であること、市場への新規参入や雇用生成政策、未払い、地域での社会的保護システム課題を解決するための取り組みなど、段階ごとの手法、手段について共有し、視野・視座・視点のスタートラインの設定が肝となることを確信しました。とりわけ、engagementが重要と登壇者の1人、Collective for Research & Training on Development-ActionのLinaさんが発言していたことが印象に残っています。

Friday, 21 March 13:15- サイドイベント

Nicaragua: MATERNAL HEALTH AND THE MILLENNIUM DEVELOPMENT GOALS

20代の女性の1人として関心があるテーマ。年間、世界で60万人の子供が、出生しても生まれていないことにされている議論については印象深く、日本ではドラマ化した赤ちゃんポストが事例としてありますが、出生登録の有無による子供の成長への支援の差異や影響など、国ごと、日本での事例、状況を研究していきたいと目標を持ちました。様々なファクターを日本という環境にあてはめて掘り下げ、アイデアを練っていききたいと思います。

Risk factors for adolescent pregnancy

- Older male partner
- Dysfunctional family
- Fatherlessness
- Inappropriate male-female relationships (rape, sexual abuse, social pressure)
- Poor self-esteem
- Low formal education
- Poverty
- Early exposure to adult sexuality



Other factors that influence adolescent to have sex

- Peer pressure
- Media portrayals
- Secularization of children
- Adultification of children
- Consumerism (fashion,music,pornography,magazines)

Monday,17 March 14:30- サイドイベント

Empowering women to break away from the vicious circle of poverty

貧困の悪循環から脱却するための女性のエンパワーメント。community Research、Resources

Individual, social entrepreneur と、大学院で学んだ内容、関心分野の事例を反芻する時間でした。質疑では GMO(Genetically modified organism)と solar cooking の話があり、3つの idea を提示、議論と、日本農業新聞でコラムニストを務めた経験から、食をテーマに社会問題に取り組む道を模索しました。来年はミラノ万博が開催されるため、意識して活動をして参ります。また、“Cities for Sustainable Development and Women’s Human rights” How can cities ensure women’s human rights in sustainable development?では、サステイナブルな街ポートランドが真っ先に思い浮かび、ヤングメンバーで視察に行きたいと計画中です。



Thursday, 20 March 13:15- サイドイベント

El Salvador: WOMEN LEADERSHIP FOR THE ACHIEVEMENT OF DEVELOPMENT AGENDA

女性のリーダーシップへの関心が強く、大学院にて社会起業家について学んでいたためこのテーマのサイドイベントに参加しました。強く共感し、印象深く記憶に刻まれたことが2つあります。

1: international social womenのために働くケニア女性の質疑応答

彼女は、コミュニティにおけるロールモデルの必要性、マイノリティとマジョリティ双方への対応について、意見を熱弁しました。規範となる存在が与える影響を熟慮しコーディネートすること、相反する立場それぞれへの配慮に意識的に取り組むこと。各国の社会問題はもちろん女性が生きる上で、また女性がリーダーシップを發揮し活躍する上で、この問題意識と解決策が、共通なキーポイントの1つであると感じました。



CSWで様々なテーマの議論を拝聴し、何かを議論する、解決策を考える際には、視野・視座・視点をそろえ、対象、段階ごとに意見や解決策を提示すること、スタートライン、根底の問いの設定と共有が、良質な答えを導きだす、議論の場を有意義なものにするために重要だと認識できた

ことは大きな収穫です。

2: Permanent Representative of El SalvadorのCARLOS氏の言葉

進行を務める彼が力強く会場に放った言葉「What Can I Do?」、「リーダーシップとはアクションである」。問題意識の共有と共に、一步を行動で形にする場を身近にすることが、私達若い世代がCSWに関し当事者意識を持つ、自分ごとのように捉え担い手となる打開策に思えます。

滞在中、上智大学教育提携校の生徒の方々が、課外学習ツアーで国連本部を訪問していました。教諭の方と名刺交換させていただきましたが初の試み、まずは知る場を作ることからお伺いし「リーダーシップとはアクションである」のロールモデルを目前に、感銘を受けました。後日、意見収集の協力、インタビューをお願いしたい旨相談さしあげたので、若い世代や彼らを育てる立場の人が何を考え



ているのか情報収集し、橋渡しとして発信する活動に繋げて参ります。おかげさまでターニングポイントとなる機会を頂戴しましたこと、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

今後の抱負

1： 来年のCSW59 レセプションフォーラムでのパフォーマンス企画

2： CSWを軸に活動する日本の女性と海外の組織、女性を繋ぐプラットフォームの立ち上げ

-CSW11期までのメンバーが交流できる場、今後に繋がる仕組み作りからスタート
-WEBサイトをたちあげCSWサイドイベント、パラレルイベント、参加者の紹介やインタビュー、日本の現状や女性の意見を発信するコンテンツを作りコミュニティ化

3： 日本の若い世代の女性の声を集め社会、海外に届ける活動

-大学、教育機関連携の女性問題に関する意識調査の実施

-研究、フォーラム開催など

上記3点を進めていきたいと、ご指導頂戴できれば幸いです。また、CSWパラレルイベントの中で取り上げられた、年間60万人の子供が産声をあげても出生登録されない、育つ過程で受けるサービスやプログラムの提供がままならず格差が生まれる、という議論に問題意識を強く覚えました。このテーマの研究と解決策もあわせて追求して参ります。



ロンドン大学ゴールドスミス大学院卒 金村はや

高校卒業後渡英、ロンドン大学ゴールドスミス大学院卒業。大学ではCultural Studies and Media Communicationsを学び、海外での生活に刺激を受けながら文化に対する興味を深める。院ではCulture Industryを専攻、ものごとに関して多面的な視点を持つ練習をし、更に興味の範囲を広げる。



参加目的・背景

知人の紹介で、このインターンの存在を知りました。単純に国連での活動に対する好奇心から興味を持ち、この貴重なチャンスをトライせずに見逃したくないという気持ちで応募を決めました。

まず今回のインターンのテーマが女性問題であると知り、日本の社会における女性の地位について考えてみた時に、私の友人が女性とキャリアに関してリサーチを行った時に私に話してくれた事を思い出しました。その友人が行ったのは、街中にいる若い女性に「自分のキャリアに対する意識」をインタビューするといった内容のリサーチでした。話を聞くと自分のキャリアに対して興味の無い人が多く、思いのほか早く結婚して家庭に入りたいという意見が多数を占め友人はショックを受けたということでした。

最近ではキャリアウーマンが増えてきたという印象が社会全体的にあるように感じますが、それはあくまでも昔に比べて増えているという事であり、現状では女性の社会進出はまだまだなのだという話をその時にした覚えがあります。日本社会における女性問題の根本は何だろうと考えたときに、「無関心」が要因のひとつにあげられるのではないかと思いました。

以前、社会に出て仕事をしている女性から聞いた話で、普段日常生活では特に意識する事はなくても、職場では男女不平等を感じる事があると聞いたことがあります。正直、私自身今まで女性だからという理由で不平等を感じたことはありませんでしたし、実際に同年代の人達からも同じような印象を受けますが、その要因として社会にまだ出たことがない学生の身分だった事も関係があるように思えます。これから社会に出て働きはじめる私にとって、女性の地位向上について考える事はとても

重要で意味があると思い、参加したいという気持ちを強めました。

そして私がこのインターンに参加したいと思ったもうひとつの理由は、人との出会いでした。イギリスに留学をした私はその経験で人との出会いの大切さを知りました。このインターンに参加する事は、もちろん様々なセッションで話を聞けることや、イベントのお手伝いをさせてもらえる事で十分貴重な経験となるのですが、それと同じくらいに参加することで得られる人々との新しい出会いが自分を成長させてくれると信じ参加を決めました。

全体の感想

内容に関しては本当にセッションごとに様々で、ステイステイカルなものから、自分の経験をもとにした現状報告まで色々ありました。まずは、それぞれのテーマに違いはあっても、ほとんどの問題に共通してあげられるものがいくつかあったので、それについて書いていきたいと思います。



数多く行われたセッションの中で“Norm”とされている事に関する問題提起が度々あがっていましたが、それは日本にも言える事で、私が参加する前に意識していたことに繋がる事だと思います。表向きには女性の進出が認められるようになったものの、女性自身の意識の中では未だに“一般的に”女性は結婚して家庭に入るのが幸せだという考え方が多いようです。結婚しても仕事を続ける人は増えてきましたが、家事をするのは女性という意識は未だに強く、男性だけではなくそれが女性にとっても当たり前の事として認識されてしまっているということです。それを望んでいる女性に対して、それが悪いということではないけれど、最初からそれが「普通」とされている事に関して問題提起出来るのではないかと思います。

状況を変えるには本人が自分の立場を認識し、自らが立ち上がらねばならないとい

う話がたびたび出てきました。各国の事情があり理由は違うにしろ、様々な所で同様の意見が述べられているのが印象に残りました。また、これ以外に何度も耳にしたキーワードは「Education」でした。自分たちで立ち上がるには、まずそれに伴う知識も必要だからです。

しかし残念ながら、社会的地位が低い女性はその知識を得る権利すら平等に与えられていないという環境があるのも事実で、更に教育を受けていないために問題意識も育っていないという悪循環が起きているので、まずはそこから何とかする必要があります。形は違いますが、これを受けて、日本の教育の中では学問的な教育とは別に、海外の他の国と比べてキャリアなどに関する向上心を育てるような要素が少ないのではないかと、という新しい考え方が出来るようになりました。1つのテーマに対して数か国が協力して問題提起している場面を多く見ましたが、私が最初に日本の問題として考えていたものが、実は他の国の問題ともこのような形で共有する事が出来るのだという発見がありました。

これらの貴重な経験を通して、実際に今回参加して自分が1番得たものは何かと考えた時、それはポジティブなエネルギーだと思います。「とにかく私達がやるんだ！やらなければ何も始まらないし、実際にやれば出来るんだ！」という意識でみんなが積極的に意見を言い合い、話し合っている内容自体はネガティブな問題が多いのだけれど、そこにある空気にはポジティブなエネルギーが動いています。もちろん、「やれば出来る」と信じているからこそその CSW の存在なのですが、実際にそれを肌で感じる事ができ、私自身もポジティブなエネルギーをわけてもらって、単なる意見交換や報告だけでなくこういったエネルギーの補充場所でもあるのだな、と感じました。また、他国の事に対しても自分の問題のように取り組む姿には、国際協力を主とする国連のイベントに参加しているのだと実感することも出来ました。

全体を通して、参加する前と後で CSW の認識が変わった事は、これはただ単に女性の為のものではないということです。女性について考えることによって子どもにも繋り、性について考え、結果的にすべての人に関わってくるという事です。テーマとしては女性のためにとうたっていても、どのセッションにも共通して、社会全体をみんなにとって住みやすくしたいという姿勢が見られます。最終的には、「みんなにとって住みやすい世界にする」というゴールは一緒なのです。

特に興味を持ったイベント

Is Prostitution Sex Work? When Terminology and Legalization Collide with Human Rights では、“Sex Work”という単語に注目して言語の重要性に焦点をあてており、興味深かったです。何故“Sex Work”を問題視するのかというと、“Work”という単語を使うことによってそれがれっきとした「仕事」として認識されてしまうという事でした。また、私たちが普段無意識に目にしたり耳にしたりしているメディアでも、単語が都合の良いように使用されてしまっていることに警鐘を鳴らせていました。同じ内容をいう場合にも、選ぶ単語によって受け取り側にずいぶん違った印象を与える事があります。

実際、インターン生の中で今後の活動について話し合った時にも、発信をするにあたってどういう表現をしていけばいいかなどを話しあったりもしましたし、これは今後も意識していく必要がある意味のあるテーマだと思えます。

Blue is the New Pink : Gender Equality through Men and Boys では、私たちが無意識に「女性はこうであるべき」「男性はこうであるべき」という観念にとらわれている事を指摘し、様々な人から共感を得ていました。また、ここでは男性も積極的に発言する姿が見られ、女性問題は女性だけの問題ではなく、男性の問題でもある事を強く感じる事ができました。セッション内での言葉を引用すると、「Both men and women get benefit by gender equality (男女平等は、男性・女性双方にとってためになるのです)」。

Everyday Sexism and Hate Speech – What are the consequence for women’s empowerment and equal opportunities で「これは女性対男性の問題なのではなく、人間対偏見の問題である」そして「人権に関することなのである」という言葉が聞けて、「みんなにとっての社会」を意識している事をハッキリと認識する事が出来ました。また、このセッションでは、欧米でも家庭に入る事を幸せとしている女性が未だに少なくないという意見も聞き、欧米では進んでいると思っていたジェンダー問題も、まだ問題視されており課題となっている事を知る事が出来ました。

From Objectification to Dignity: Positive Media Representations of Women and Girls では、現代社会で起きている“Sex trade”について触れ、とても衝撃的でした。しかし、それと同時に、メディアを有効的に使うことによってこの問題に取り組む事が出来るという前向きな姿勢も見えました。このセッションでは、現役の学生も

ゲストスピーカーとして参加し、彼らが実際に作ったビデオを観て、話を聞き、その場にいた人がこれからのメディアと若者に期待を感じることができました。

今後の抱負

最初に私の参加目的で期待していたように、今回たくさんの人との出会いに恵まれ色々な刺激を受けました。そしてそれは今回共にインターンとして参加した方々に対しても同じです。みなさんそれぞれに自分の考えがあり、同じ立場として様々な意見を話し合えたのは他の経験と変わらずとても貴重なものだったと思います。

女性問題における日本社会の問題は何だろうと考えたときに、まずは社会に対して何か訴えるよりも先に、女性自身の無関心や、意識の低さがあげられるのではないかと考えていたのですが、その考えは今回参加したみなさんも感じていたもので、同じ考えを共有することが出来ました。この5人で話し合った中で、“日本で女性問題について話すこと”の機会が少ないのではないかとという意見で一致しました。今後、このような話が自然と出来るような社会になっていければいいと願っています。

また、これから何かを発信していく際には、例えば、単語1つを選ぶにしても責任を持ってよく考えて選ぶなど、今回感じた事や学んだことを十分に活かしていきたいと思います。そして特に色々なところで、若者に期待していると声をかけていただいたように、私が CSW で感じたエネルギーを若者が発信していける社会にしていきたいです。



津田塾大学学芸学部国際関係学科 3年 小林千紘

小学6年生の時に、世界で最も寿命が短い人々が住むと言われる、シエラ レオネについて書かれた本に出会ったことから、世界の貧困問題に興味を持つ。それから、高校生の時に一年間休学し英国へ留学。英語を勉強するとともに様々な国から来る留学生と出会いによって、様々な文化や多様な価値観があることを肌身をもって実感する。大学では、英語を勉強しながら開発学、人類学や平和学などを学んでいる。世界の貧困、教育、人権問題など幅広い興味を持ち現在は国連研究のゼミに所属し、将来は国際機関で活躍したいと思っている。



kobayashi.chihiro.11434@gmail.com

参加目的・背景

私は、大学のゼミで国連研究を専攻しており、国連について非常に興味を持っていました。世界中に存在する問題に対して、国連は複合的に様々なアクターを巻き込みながら、活動しています。国際機関としては加盟国も過去最大規模であり、世界の平和及び安全を達成することが期待され、創設されました。今まで、文献を見たり、国連で働く方のお話を聞いてきたりしたものの、自らの目でそのような国連の活動を見たことがありませんでした。

いつか国連にいつてみたい、国連の活動をこの目で見てみたいという思いはあったものの、なかなか学部生ではチャンスありません。そのような状況の中で、今回のCSWインターン募集を知ったときは、心が踊るような思いで、早速応募しました。又、将来国際機関で働くことを目指しているのも、インターンを通して国連で働く様々な方々とお会いし、直接お話を聞いてみたいという思いもありました。CSWが主に扱うジェンダー問題については、現在通う女子大学でジェンダーに対する諸問題を学ぶ中で、先進国、途上国、日本を含め、世界中では多くのジェンダーに関する困難が存在することを知りました。

CSWを通して、世界共通のジェンダー問題に対して各国の政府、国際機関、NGOなどがどのように考え、活動を展開しているのかを感じてきたいと



思っていました。各国からの参加者と議論する中で、一人の女性としてこれから生きて行く上で、生きやすい社会にする為のヒントを得られたらと思っていました。そしてCSWの歴代の日本政府代表9名のうち、4名が私が現在通っている津田塾大学の卒業生、ないしは学長であったということもあり、今回参加させていただいたことに、非常にご縁を感じていました。

全体の感想



今回、CSWという経済社会理事会の中の一つの委員会の年次会合に参加させていただきましたが、実際の国連本部に入り、そこで見聞きしたことは、大変貴重な経験であり、このような機会を得られたことに、多くの方々に御礼申し上げます。各国の政府代表やNGOの方が一同に集まり、喧々諤々している

様子を見たとき、国連に来たのだと強く実感し、自分なりに感じたことなどを多くを吸収して帰国しようと心に決めました。体験したことを報告するという事は、参加させていただいた者の義務だと思い、又多くを御伝えたいと思いますので、この報告書により、私たちが体験したことが少しでも伝わり、感じたニューヨークの熱気を皆様のところへとそのままお届けできますように。

私にとって、今までの国連のイメージとは、なにか少し遠い存在でした。しかし、様々な思いで集まっている国連で働く人と実際に話してみると、国連に対するイメージが少しずつ変わっていき、やはり国連を動かしているのはやはり私と同じ“人”なんだと実感するとともに、国連の存在が近くなったように感じました。今回、私はNGOの一員としてCSWに参加していたので、NGOから国連を見るという視点で様々な事象を観察していました。CSWにおいてNGOの影響力は非常に大きく、その大きさは年々増しているようでした。

世界各国から、数えきれないほどのNGOが、人々が、3月の約二週間の間に遥々ニューヨークに集まるということは、それほどに皆がCSWに期待を寄せていることの現れなのではないかと身をもって実感しました。

NGOは今や第三の国連と言われるようになっており、その影響力は国際社会でも認識されています。そのような、大きな動きの中に数週間身を置き、そのダイナミックな流れを間近でみることは、国連研究を専攻している者としては、非常に貴重な体験でした。国連で主権を発揮するのは、やはり原則的には主権国家であると思います。

しかし、NGOなどの市民社会の意見を取り入れることは非常に重要であり、国の意向だけを汲み取ることは、人々の平和や安全を保証することにはなりません。今回のCSWでは、日本政府側がCSWに参加している日本のNGOに対する会合を設けてくださり、二週間の各国政府代表の議論の方向や日本政府としてのCSWに対する動き、意向などを丁寧に説明してくださり、又質疑応答の機会も設けてくださいました。

特に興味を持ったイベント

・ Security-Peace-Development: Women Peace Makers recommendations for the post-2015 MDG Agenda (By Joan B. Kroc Institute for Peace & Justice)

ここでは、主に平和構築とジェンダーについての議論がされていました。平和構築とは、様々な定義があるが、戦争から平和への移行期に、元兵士の武装解除や社会復帰、紛争予防、再び紛争が繰り返されないような安定した社会を構築していくことなどが含まれます。平和構築において、女性の役割は非常に重要とされています。昨年には、国連安全保障理事会が決議2122号を出し、平和構築において女性のリーダーシップや積極的な参画が唱われていました。しかし、登壇者は、やはり紛争のときは、女性は犠牲者となり、紛争後の社会にも積極的に参画できないのが実情であると主張していました。紛争の時、兵士として戦いに行く男性の代わりにコミュにティーを支えているのは女性であり、とても重要な役割を担っていると言えます。しかし、紛争後の社会において男女平等が実現されることは難しく、今後の国際社会の動きに期待したいと思います。今回のイベントにより、平和構築に興味を沸かした為、日本で数少ない平和構築を行っているNPOで、CSW参加後に長期インターンをさせていただくことになりました。

- ・ 日本主催：サイドイベント「Disaster Risk Reduction (DRR) and Empowerment of Women 」

3月14日、国連本部にて日本政府代表団がCSWのサイドイベントを開きました。題名は「Disaster Risk Reduction (DRR) and Empowerment of Women 」わたしは、受付としてお手伝いさせていただきました。これは、3.11を経験した日本ならではの視点で、女性のエンパワーメントが達成されているところで、災害が起きた時には、その被害を軽減させることができるというものでした。日本としては、この内容が盛り込まれた決議というものを国連に2012年から出していて、それは決議として国際社会から認められています。79 の共同提案国が賛同し全会一致で採択されたこと。2012 年の共同提案国 数は 49 でした。昨年、安部総理が国連本部での演説にて女性の活躍についてのステイトメントがあり、少し話題になりました。しかし、わたしは今回このイベントに参加しなかったら、日本政府がこのような活動を行っているとは知りませんでした。大きな悲惨な災害を経験した日本が、その経験を活かし、国際社会の為に、このような決議を出していることにとても誇りを持ちました。



今後の抱負

今回の CSW では、世界各国からどうしても問題を解決したい、何とかしたいという強いパッションを持ち、遥々国連本部のあるニューヨークの地に来た多くの女性に出会う中で、非常に刺激となり、大変貴重な経験となりました。今まで、あまりジェンダーについて意識したことがなく、性別による困難に直面したことがあり

ませんでした。しかし、日本国内に目を向けて見ると、日本が抱えるジェンダー問題は深刻な状況であり、自分なりに考え、何か自分にできることを行っていきたいと考えています。又、今まで遠い存在のように思えた国連でしたが、今回の国連でのインターン経験を通し、そこで働く'人'の顔を見ることができたことにより、結局世界中のどこへ行っても、国や組織などを動かしているのは人であり、様々な問題が起こるのも良くも悪くも人が影響している、というごく当たり前のことに改めて気づきました。一人一人の意識が世界に大きな影響を与えると思うのです。国家を越えた、一人一人の繋がりによって世界の問題は改善に向かってくのではと思いました。結局、「人」なのだから。これから、CSWで経験したことを活かし、これからの道を歩んで行きたいと思います。直近では、今回のインターンで得たことを活かし、大学の卒業論文として形にしたいと思っています。今回の出会いに感謝です。ありがとうございました。



タイムス・スクエアにて

グランドセントラル駅にて (左)
ウォール街 (右)



Lush Oxford Sales Assistant / Enishi Japan 代表 林 乙羽

14 歳より単身でニュージーランドのボーディングスクール (Wanganui Collegiate School) へ留学し、大学から渡英。Oxford Brookes University の社会科学部で人類学を専攻。学生時代のアルバイトやサークル活動等の経験を通して、卒業後は Oxford 市内の旅行会社に就職。現在はイギリスの自然派化粧品会社 Lush Retails Ltd. の Oxford 支店で、セールス担当をしながら個人事業を立ち上げたばかり。



otoha.hayashi@gmail.com

参加目的・背景

応募の決め手となったのは、CSW のために「国連の本部」へ向かう「日本 NGO 代表のひとり」として参加させていただける、ただそれだけの理由でした。小学校高学年より、外交官になるなど何らかの形で日本を代表して他国と交流する存在に憧れていました。そのために周囲の友人よりも遥かに早い段階から英語やフランス語を流暢に操りたい、そのために早く留学しなければという気持ちでいっぱいでした。

外交官を目指して留学をしたものの、日本での義務教育を修了していないため公務員になれないという現実は、大学進学前に初めて知りました。BPW Japan の CSW インターン募集は、それ以来完全に絶たれていた「国連本部へ日本人として行く」という夢を復活させてくれた情報でした。

全体の感想・特に興味を持ったイベント

渡米前は参加するイベントの内容にバリエーションを持たせようと思っていたのですが、最終的に参加したイベントは人類学や社会学系な内容のものばかりになってしまいました。うち半分は、大学時代に興味を持って授業や課外セミナーに積極的に参加していた内容とほぼ同じものばかり。そのためかイベントによっては、大学時代から



すでに知っていた情報やインターネット上で読んだ事のある情報が多く、どちらかと言えば正しい情報だったのか答合わせをしている感じでした。残り半分にあたるイベントでは、考えた事もないような情報をパネラーの知っている「現実」として紹介され、良くも悪くも衝撃的な経験をしました。

その中でもきわめて印象に残ったイベント 2 件が、*“Blue is the New Pink: Gender Equality through Men and Boys”*や*“Crescendo: Discussion about choices facing women with unplanned pregnancies”*といった、男性がメイン・スピーカーであるイベントでした。*“Blue is the New Pink...”*では、父権社会を「生き辛い」と感じるのが必ずしも女性ではなく、個人差はあれ男児も型にはまった生き方で傷ついたり、苦しみながら人生を送っていることがあるという現実を生々の声で聞けました。

*“Crescendo...”*では、15 分程の同名ショートムービーを鑑賞し、監督自身がパネラーとして話をした後、墮胎が母体に及ぼす心身的影響のプレゼンを聴き、最後に参加者全員でオープンディスカッションをしました。墮胎で傷つくのは女性の心身だけでなく男性も一生消えない傷を負うことを、監督が自身の辛い体験と一緒に共有してくれたのですが、話の内容への衝撃よりも、もう少し考えてみれば自分でもわかりそうな話なのに考えもしなかった現実がショックでした。このイベント後半のオープンディスカッション中に、中国の NGO から参加していた女性と少し話をする機会がありました。パネラー本人にお互い紹介を受けてからの出会いでしたが、墮胎の話からなぜか中国と日本で手を取り合って公園を作ろうという話に発展し、私にとって最初から最後までものすごくインパクトのあるイベントとなりました。

CSW 参加前は、特に熱心な女性運動家ばかりがパネラーとして全イベントの壇上にかかるのだと思っていた私は、幾人もの男性が **ManCare+**という団体や個人として CSW に参加している事に驚きました。私自身が女性運動家ではなく、男女平等や人権の尊重に興味を持っているため、男性達が何を話すのか、イベント参加前からとても興味がありました。登壇した男性のほとんどがヘテロセクシャルだった彼らが、辛く思った自身の体験を元に、女性運動も生かしつつ世界を変えようとしているのがとにかく衝撃的でした。私が社会を変えるには、女性だけでなく男性の協力も必要だと常々思っていたので実際に男性の声が聞けて大変嬉しく思いましたが、改めて自分もアクティブに活動したいと強く思えるようにもなりました。

今後の抱負

CSW58では、私と同じ信念の元に活動している人達、BPW Japan と International Federation of BPW メンバーの方々、UN Eco-Soc の方や、全く分野の違うビジネスを立ち上げたばかりの 20 代の人達など、たくさんの方と情報交換はおろか、名刺交換や今後一緒にやってみたい活動について語り合うという貴重な機会をいただきました。たまたまキャンセルされたイベントから生じたディスカッションでも、年配の CSW 参加者の方々と意見交換ができ、Post-2015 が皆にとってどれ程のターニングポイントなのかを改めて思い知ったのも事実です。同時にアジア女性の立場の弱さや、伝統を重んじるあまりに女性が劣勢なのを普通と思いがちな状況を打開したいと強く思いました。私のコミュニケーション能力をフル稼働して、自分の故郷である日本にも男女平等の風を吹かせるための活動をヤングチームの一員として BPW Japan からさせていただきたいと考えております。

私を含め、今回インターンとしてニューヨークへ同行させていただきました5名の間で、すでに BPW Japan ヤングチームとしてやってみたい活動についての話し合いをしています。どこまで行けるのか、私たちの『野望』が何割達成できるのかなどは当然未知数です。でも未知数だからこそできることがたくさんあるのではないかと、という前提のもとに、これからの日本が世界へより広がって行けるような活動をしたいと思っております。

応募当時には全く想像のつかなかった発見や知識、出会いに恵まれた SW58。「1回きりで終わらせたくない」と強く思わせられる、素晴らしい体験をさせていただきました。



これからどのような社会を築いていけるのだろうか、正直不安よりもワクワクしています。

大変貴重な機会をいただきましたこと、感謝しております。ありがとうございます、そしてこれからもよろしくお願いたします。

若者の働き方意識に関する調査

～ニューヨークにてインターン同士の会話から～

アジア、特に東アジアの団体は「声が小さい」？

「私たちの国には、緊急を要するジェンダー問題がないからだろうか。」

「危機感が無いから声が大きくなるのだろうか。」

「他の国に比べて、日本人の若者はジェンダー問題に対する関心が薄いように感じる。」

日本にジェンダー問題が存在しないのではなく、問題を問題として提起することに対する抵抗を感じる人、現状を「仕方がないこと」「変えられないこと」と思っている人が多いことが表面上の関心の薄さに繋がっているのではないかな？



ある日の食卓で、このような会話になりました。

ジェンダー問題に対して表立った発言をしていない、私たちの友人知人、そして日本中の同世代は実際のところどう思っているのだろうか。

今後の BPW としての活動のためにも、突然湧いて出た私たちの疑問のためにも、帰国後に簡単なアンケート調査を実施することで話がまとまりました。

アンケート調査は家田菜穂子と林乙羽が担当しました。

安倍政権が目玉の一つとして掲げています「女性が輝く社会を目指す」という政策は、女性の働き方、生き方にスポットを当てています。一方で「家事・育児だけで精一杯頑張っているのに、もっとバリバリ働けだなんて、女性に負荷をかけすぎじゃない？」という意見も聞かれます。そしてこの政策は、女性だけの問題ではありません。男性の育児休暇取得率の向上も必要とされています。今回私たちは「若い世代は、実際どう思っているの？」という疑問から、アンケート調査を始めることにしました。これから、若い世代が「働き方」について何を求めているのかを明らかにし、真に必要な変化を若手として提案していきたいと考えています。今回は簡単な報告として、アンケート結果の一部をご紹介します。

【調査目的】

若い世代がこれからの「働き方」について何を求めているのかを明らかにし、日本のジェンダーギャップを埋めるために真に必要な変化を提案すること。

【調査機関】

BPW Japan ヤング委員会・CSWプロジェクト

【調査対象】

20代～30代を中心とする若い世代の男女100人

【調査方法】

インターネット上のアンケート作成サイトを用い、Facebookなどのソーシャル・ネットワークワーキング・サイトを通じて回答を募る。

【調査期間】

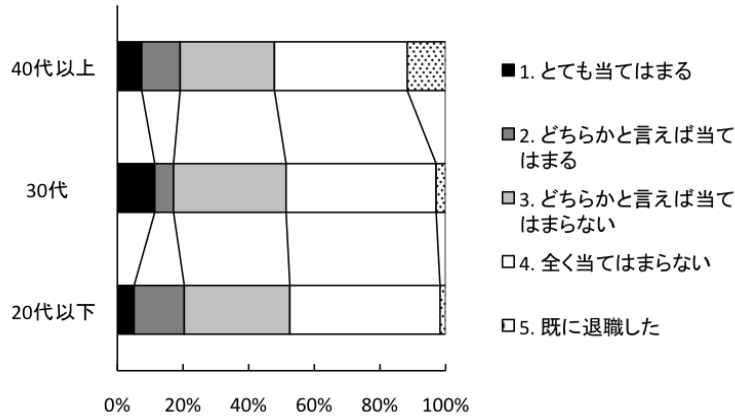
2014年11月6日～2014年11月16日

【回答者の概要】

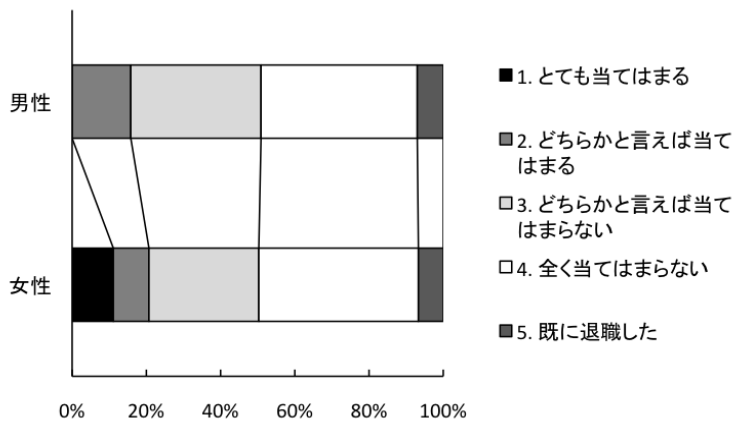
年齢層	割合(%)	回答者数
19歳以下	0.9%	2
20～24歳	7.8%	18
25～29歳	21.1%	49
30～34歳	7.8%	18
35～39歳	9.9%	23
40歳以上	52.6%	122
合計回答者数		232
未回答者数		2

就労形態	割合(%)	回答者数
常勤フルタイム	49.1%	110
時短正社員	0.4%	1
非常勤	2.2%	5
派遣社員	2.2%	5
契約社員	2.2%	5
パートタイム	2.7%	6
アルバイト	4.0%	9
自営業	23.2%	52
専業主婦／主夫	4.5%	10
学生	9.4%	21
その他		15
合計回答者数		224
未回答者数		10

女性への質問:妊娠や出産をきっかけに、(産休・育休ではなく)退職しようと思いませんか？ 男性への質問:パートナー(妻)が妊娠や出産をしたら、退職してほしいですか？

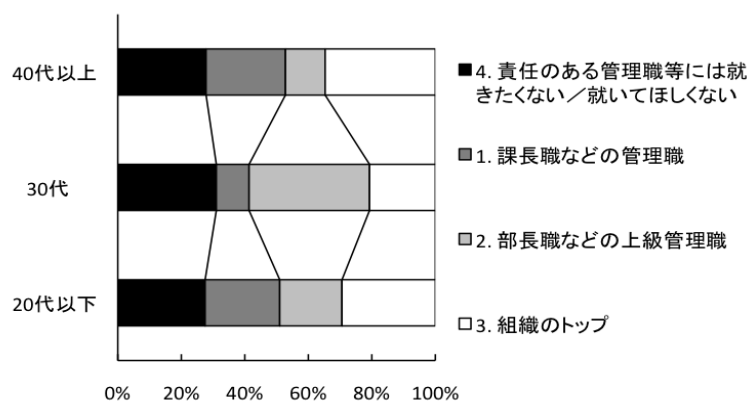


	20代以下	30代	40代以上
1. とても当てはまる	5.1%	11.4%	7.4%
2. どちらかと言えば当てはまる	15.3%	5.7%	11.7%
3. どちらかと言えば当てはまらない	32.2%	34.3%	28.7%
4. 全く当てはまらない	45.8%	45.7%	40.4%
5. 既に退職した	1.7%	2.9%	11.7%

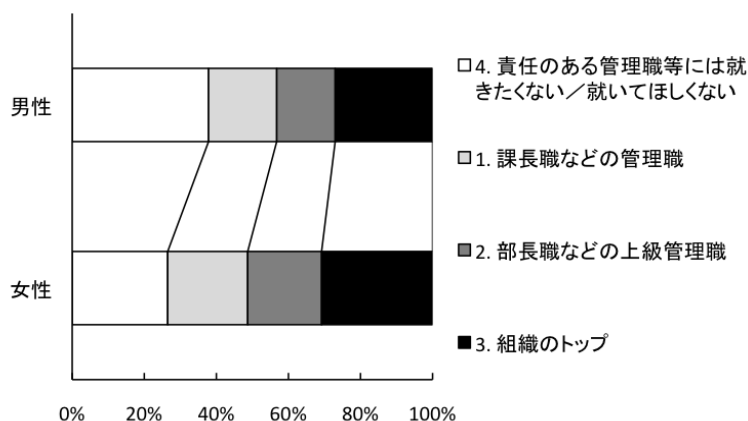


	女性	男性
1. とても当てはまる	11.1%	0.0%
2. どちらかと言えば当てはまる	9.6%	15.8%
3. どちらかと言えば当てはまらない	29.6%	35.1%
4. 全く当てはまらない	43.0%	42.1%
5. 既に退職した	6.7%	7.0%

女性への質問:自分のキャリアについて、将来の目標としている立場は以下のどれですか。
 (既に退職された方は、当初の希望を教えてください。)男性への質問:あなたのパートナー
 (妻)に、将来、どのような立場で仕事をして欲しいですか。



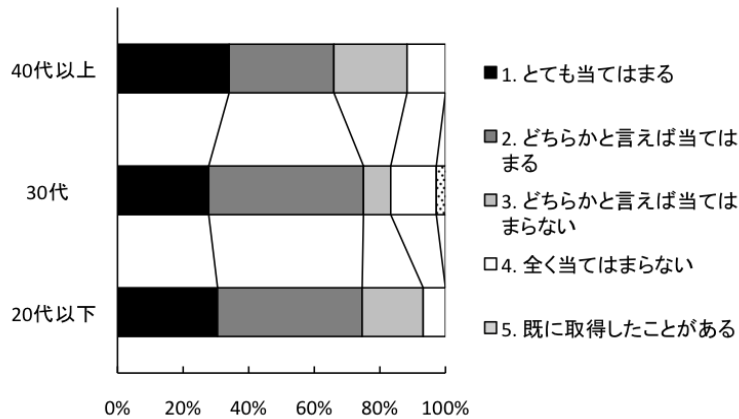
	20代以下	30代	40代以上
1. 課長職などの管理職	23.5%	10.3%	25.0%
2. 部長職などの上級管理職	19.6%	37.9%	12.5%
3. 組織のトップ	29.4%	20.7%	34.7%
4. 責任のある管理職等には就きたくない/就いてほしくない	27.5%	31.0%	27.8%



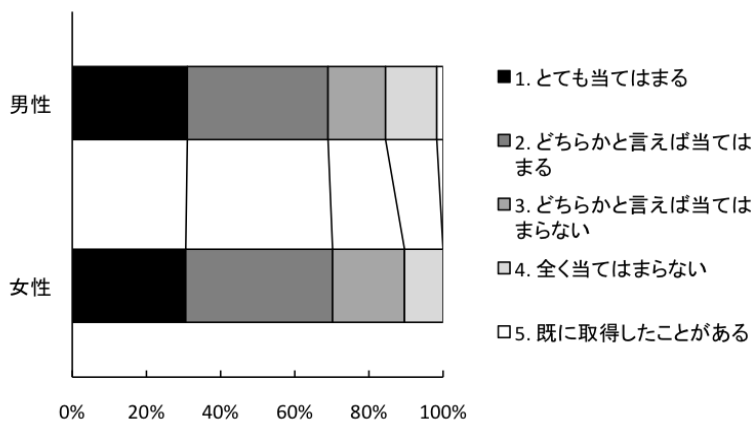
	女性	男性
1. 課長職などの管理職	22.2%	18.9%
2. 部長職などの上級管理職	20.5%	16.2%
3. 組織のトップ	30.8%	27.0%
4. 責任のある管理職等には就きたくない/就いてほしくない	26.5%	37.8%

女性への質問: 可能ならば、パートナー(夫)に育児休暇を取って欲しいですか。

男性への質問: 可能ならば、育児休暇を取ってみたいですか。

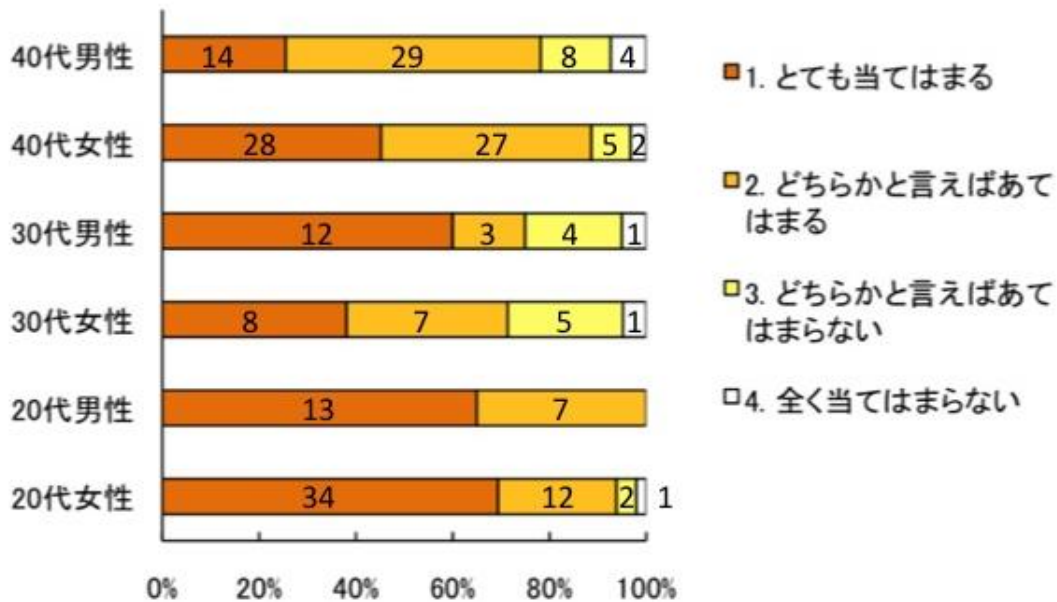


	20代以下	30代	40代以上
1. とても当てはまる	30.5%	27.8%	34.0%
2. どちらかと言えば当てはまる	44.1%	47.2%	31.9%
3. どちらかと言えば当てはまらない	18.6%	8.3%	22.3%
4. 全く当てはまらない	6.8%	13.9%	11.7%
5. 既に取得したことがある	0.0%	2.8%	0.0%

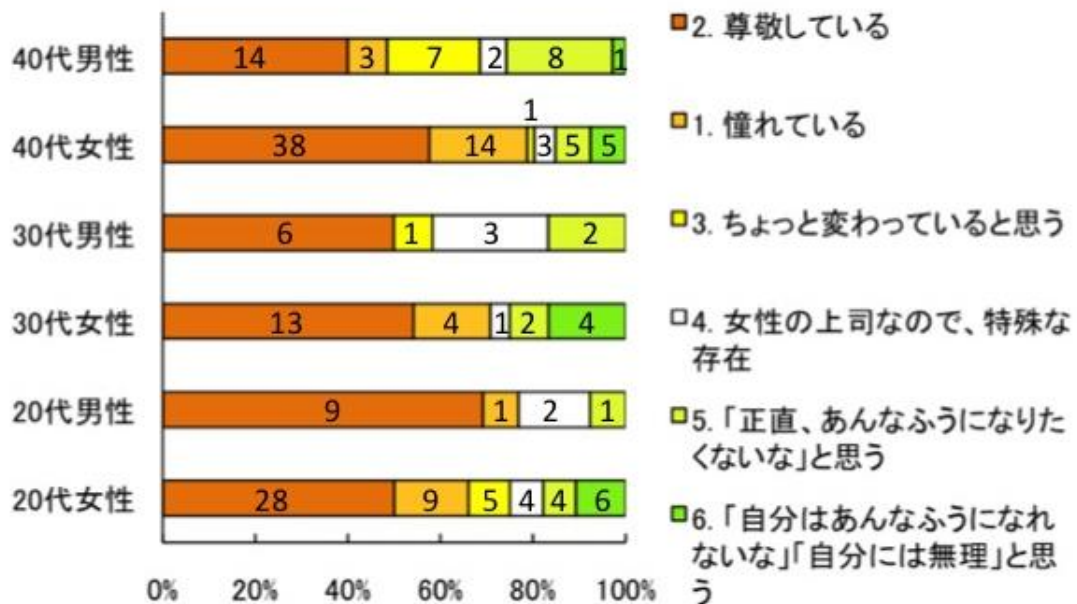


	女性	男性
1. とても当てはまる	30.6%	31.0%
2. どちらかと言えば当てはまる	39.6%	37.9%
3. どちらかと言えば当てはまらない	19.4%	15.5%
4. 全く当てはまらない	10.4%	13.8%
5. 既に取得したことがある	0.0%	1.7%

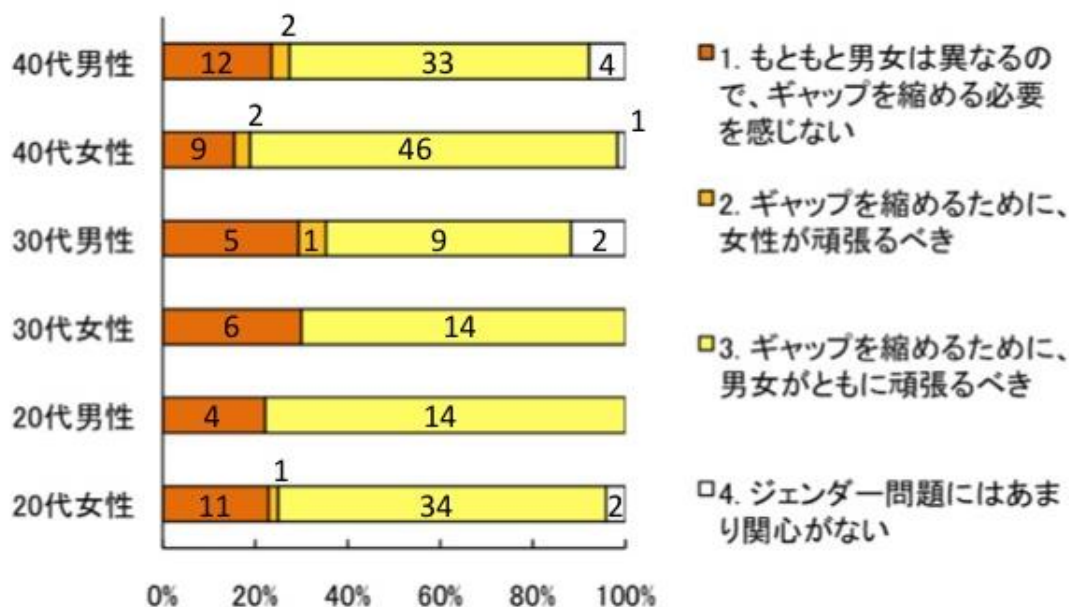
あなたの職場で、男性の同僚が育児休暇を取得することを希望したら不在中の仕事の代替や職場復帰に協力できますか。



これまで経験した職場での女性上司に対して、どんな感情を持っていますか？（複数回答可）



世界経済フォーラムによるジェンダーギャップ指数では、日本は142カ国中104位(2014)でした。このジェンダーギャップについて、どう思いますか？



【上記の設問に対する回答者からのコメント（一部抜粋）】

- 女性と男性が対等になることで、女性の出世や政治参加が出来ていると考える傾向が強いと感じる。これは男性を基準として女性の立場の確立をしようという考えだからなのだろうが、この考え方自体がまずジェンダーギャップ、差別を生んでいると私は思う。(20代女性)
- 日本は、女性の仕事育児だけでなく、精神障害やセクシャルマイノリティに対する格差がとても大きい。誰もが社会で活躍でき、生きる幸せを実感できる日本になってほしい。(40歳以上女性)
- 非合理的ジェンダーギャップを特定し、それは縮めるべき。原理主義的無差別化は正しくない。(30代男性)
- ジェンダーギャップを縮めるためにありとあらゆる方策を採るべきだ。政策、法律、商習慣、等々。(40代以上男性)

【まとめと所感】

女性の社会進出に欠かすことのできない、男性の家事・育児・介護への参加については、全ての世代で多くの人が「男性の同僚の育児休暇取得に協力できる」と答えました。世界経済フォーラムによるジェンダーギャップ指数の結果についても、多くの人が「ギャップを縮めるために男女がともに頑張るべき」と考えていました。一方で、世代間で比べると、「もともと男女は異なるのでギャップを縮める必要はない」と答えた人が 30 代で最も多い結果となりました。30代は出産や育児を既に経験しており、また 20代に比べて職場で果たす責任も大きくなり、現状では家庭と仕事の両立は難しい、と考えている人が多い世代なのかもしれません。女性の上司に対して「尊敬している」「憧れている」というポジティブな捉え方をしている人が多い反面、「変わっている」「あんな風になりたくない」とネガティブな回答をする人は、女性よりも男性に多い傾向がありました。この結果から、やはり少しでも多くの女性が昇進し、社会的責任のあるポジションに就くことで、ロールモデルを増やす必要があると感じました。

世界経済フォーラムのジェンダーギャップ指数に関する質問に対しては、前項で紹介した他にも様々な意見をいただきました。「ジェンダーギャップを縮める必要はない」という意見、また、「世界経済フォーラムによるジェンダーギャップ指数は基準がおかしいのではないか（正しくない、根拠がない等）」という意見もありました。このような、ジェンダー格差を縮めることに対する否定的な意見を見て、日本ではまだまだ「ジェンダー格差」という言葉そのものが理解されていないのではないかと感じました。

私たちヤングメンバーは、日本のジェンダー格差は少しでも早く解決すべき問題であると考えています。一方で、私たちが求めているものを「女性の権利の獲得」「フェミニズム feminism」という言葉で表現するのは、あまりふさわしくなく、むしろ「男女がともに自己実現できる社会」「Equalitarian（強いて訳すならば「平等主義者」でしょうか）」と表現する方がふさわしいように感じています。（...もっと突き詰めれば、equality（平等）ではなく equity（公平）という言葉を使うべきであると考えていますが、この議論はぜひ、興味を持ってここまで読んでくださった皆様と直接お話したいと思います。）

今後は、既存の「男女平等」という言葉にとらわれず、ジェンダー格差の解決は「男女がともに、より多くの幸せを求めることができる社会」の実現につながる、という考え方をもとに、若い世代に興味を持ってもらえる活動を続けていきたいと考えています。

Life in New York ~ 理想と現実

私達インターンが、CSW58 のイベント等に参加していない間の生活について、そして渡米前の計画・予定と現実を併せて少しご紹介いたします。



国連本部ビル

* 渡米前 *

私達 5 人が顔を合わせることは残念ながら一度も無く、事前に CSW 説明会で顔合わせが出来たのは大濱、小林と私の 3 名だけでした。全員が自由奔放な性格だったためか、先輩方からメールで言われるまでフライトや宿泊場所の相談をする事はありませんでした（苦笑）。

事前に顔見知りだった大濱と林以外、フライトは各々で手配。宿泊場所だけはメールのやり取りでしたが（笑）

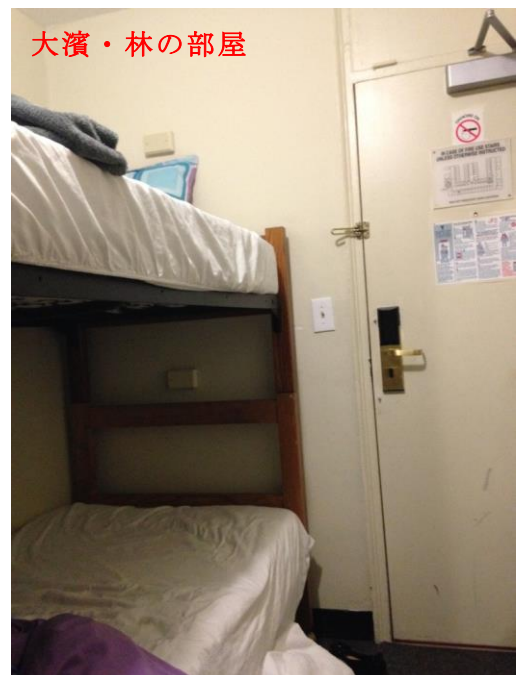
* 宿泊場所 *

当初は、前年インターンの方々が宿泊された Pod39 というユースホステルに滞在予定でした。ところが、値段を見てビックリ！

「これでは私達の予算でまともな食事は無理だ...」

何と全員が食欲旺盛で、あわよくば食の観光もしたいと思っていた事が判明しました。相談の結果、少しでも食費に 割くお金を浮かせるため、より安い場所を探す事に。

こうして見つかったのが Vanderbilt YMCA でした。国連本部の入口と同じ 47th Street に建っていて、その為かセキュリティも厳しい。ツインの部屋は全て二段ベッドでかろうじて二畳あるかどうかのサイズ。バスルームとシャワールームは、各エリアにある男女別の場所を使う。最低限に寝泊まりさえで



大濱・林の部屋

できれば良かった私達には完璧な場所でした。

他国から CSW に参加している NGO の方々も多数宿泊していたのですが、大濱・林のシェアしていた部屋ではヒーターの不調に悩まされました。しかも二段ベッドの上段には柵がついていなかったため、滞在中の 2 週間、私は毎晩落ちかけて夜中に目を覚ますという貴重な体験をしました（笑）。



* 観光 *

ほぼ全員が初・NY だったため、ミーハーな私達はぜひ訪れてみたい場所のチェックを各々怠りませんでした。全員が行きたいと思った場所がひとつも無かったため、観光はバラバラ、もしくは 2~3 名に別れての行動に！

私個人は、セントラルパークの散歩、世界貿易センター跡、NY 在住の大学時代の友人となるべく会うこと、そして美術館・博物館巡りが観光目的だったため、ほぼ単独行動になりました。

自由の女神像までのフェリーは再開通したばかりで 3 ヶ月先まで予約いっぱい、Empire State Building は予想以上の高額で上れない、映画に出てくるスケートリンクまで行ったものの終了時間間際に入れてもらえないなど、5 人での観光はことごとく災難に見舞われました（苦笑）。



NY 証券取引所



地下鉄



食事

さて、宿泊場所の質を落とせるだけ落とすのがわからないぐらい重要だった食事です（笑）。

NYで私達が初めて出くわした食事処は2つ程。ちょこちょこと見かけるメキシカンのお店、そして **Eatery** という食堂・カフェ・コンビニとインターネットカフェが1つになったようなお店です。



宿泊所のキッチンが借りている部屋から少し遠いこともあり、ものぐさな私はこの **Eatery** という物珍しい食堂をよく利用していました。食堂の食事はビュッフェ・スタイルで、お店によって中華やインド系のアジア料理だけだったり、サラダが何種類も置いてあってパスタだけでなく洋風の肉料理などもあってメニューが豊富だったりと様々でした。中には目の前でシェフが作ってくれる料理もあって、とても楽しかったです。**Eatery** は料理の種類ではなく、全部まとめて量り売りですので、カフェやレストランで食事をするよりも断然安上がりで大変助かりました。**\$15** もあればかなりまともな食事になり、

ジュースやコーヒーを買う余裕もあったのが嬉しい！

楽しみにしていた食の観光ですが、NYに行ったら食べねばならないモノというのは意外と多くて制覇にはなりませんでした。ホットドッグ、ドラマ『**Sex and the City**』に出てくる **Magnolia Bakery** のカップケーキ、セントラル駅地下の有名な **Oyster Bar**、ベーグル、『朝食の女王』と呼ばれているレストラン **Sarabeth's** のパンケーキ、本場により近いメキシカンフードなど、食したいものの系統も値段もバラバラでした。

個人的に食べたかったけれど食べられなかったものはベーグルでしたが、前述したそれ以外のものは食べる事ができて幸せでした！



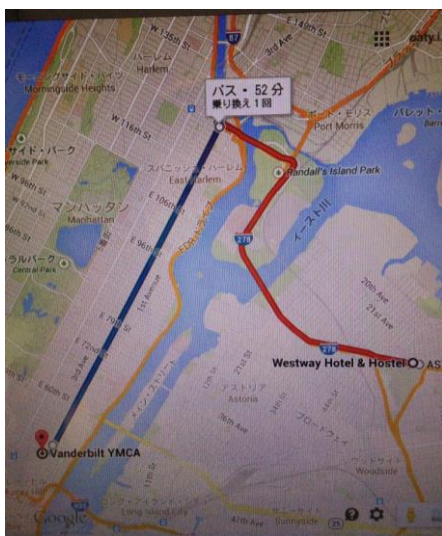
朝食はスーパーや Eatery で買った菓子パンやフルーツ、またはスターバックスでコーヒーと一緒に買ったパンなどで済ませる事がほとんど。その日参加したいイベントのタイミングによっては、昼に Eatery に行ったり昼抜きだったりしましたが、夜は誰かしらと食事に行く事が多かったです。

↓デッカーいアイスクリーム発見



その他

私達が滞在、そして活動していたマンハッタン島は路が全て碁盤の目のようにまっすぐできています。通りの名前も数字がふってあって（47th street や 5th avenue など）、英語ができなくとも、極度の方向音痴でも必ず目的地にたどり着く事ができます。おしゃれショッピングのエリアである5番街以外は、歩道も車道もデコボコとしていて、特にセントラル駅周辺がひどく歩きにくいのはビックリしました。住宅街とオフィス街、観光エリアの全てが凝縮されたようなこの島で、特に目についたのがマッサージのお店でした。ガラス張りで中が見えるのですが、マッサージやマニキュア・ペディキュアなどのサービスが受けられるお店で、アメリカ映画でちょっと息抜きに行ったりする場面を見かけるところです。因にこれを見て感動していたのはインターンの中でも私だけです。



総合的に見て、お上りさんでも外国人観光客でも満足な滞在ができるいい場所だな、
と思いました。安全...とは言い切れないかと思われませんが、どこの国でも都会で最
低限気をつける事さえ守っていれば何のトラブルに巻き込まれる事もない。アメリ
カは危ないと思っていたのが覆され、とても楽しい滞在となりました！



第58回国連女性の地位委員会（UN 58CSW）報告

日本BPW連合会企画委員長 平松昌子

第58回国連女性の地位委員会（58 CSW）は、3月10日から21日まで2週間の日程で開催された。ニューヨークに集まった女性の数は約5000人とも言われる。日本からの参加者は把握されているだけでも40名以上、その中にはインターンも含む日本BPW連合会の15人も加わっている。

第58回女性の地位委員会での議論と成果：

◆CSWでのテーマ：、通常は「北京行動綱領から特定の項目を取り上げ、その実施状況を検討して、実施のための方法を盛り込んだ「合意結論」（Agreed Conclusion）を採択するのだが、今年は、「来年を達成期限とするMDGs」の成果と課題を検討することが主要テーマとなった。

*MDGs（Millennium Development Goals）～2000年のミレニアムサミットで採択された。「①貧困と飢餓の撲滅、②初等教育の普及③ジェンダー平等、④乳幼児の死亡率削減、⑤妊産婦の健康保持、⑦エイズの防止、⑧環境と生活の確保の8項目」を2015年までに解決を目指す。

◆合意結論に関する議論は、今回の議長はクリスチーナ・ロウさん（スイス）で、議論方法は、意見の一致を見ない場合は、丁寧に意見の出し合いを待つというスタイルだった。原案（ゼロドラフト）の7ページは議論が進むと34ページに増殖していた。この間、議長は言語の解釈を一致させたいと半日をその討議に充てたこともある。その言葉とは「family」で、ジェンダー平等や女性のエンパワーメントもfamilyの理解が重要だという認識による。

◆注目しておきたいのは、日本が「自然災害と女性の役割」という決議案を提出し、合意結論でもその項目を盛り込む作戦をとった**ことである。

****・・・さらに、女性が、大災害での被害削減、リハビリや再建を含む災害の復旧に際して役割を果たしていること、それ以上に災害の防止、災害発生時への準備、防災計画作成への関与、など女性が能力を発揮し、協力を推進することの必要性を認めるものである。**

最終日、合意結論が一致点に到達したのは日付が変わった22日午前1時だった。

◆日本初の決議案（Emerging Issue）提出：日本は今回決議案「自然災害におけるジェンダー平等と女性のエンパワーメント」を提出した。今回、提出された決議案は4件。日本の決議案は80カ国を越す支持を得て採択された。

◆各国の代表演説：今回は151か国が発言を求めてエントリーした。発言教時間は@5分だが、ほとんどの発言者はこれを無視した。日本は、2日目に石原外務政務官が演説。

サイドイベントの実施

CSW 会期中に本会議とは別に、500件前後のイベントが展開される。それには大きく2種類あって、① NGOが独自に企画しNGOCSW委員会に申し込んで、会場や時間の割り当てを受けるパラレルイベント。もう一つは② サイドイベントで、NGOが政府または国連機関とジョイントして実施するもので、国連本部内の施設が使用される。

日本の立場を世界にアピールするためには、政府のNGOによるサイドイベントが好ましいと積極的に取り組んできた。テーマは「自然災害のリスク削減と女性のエンパワーメント」で、被害を減らすには女性のエンパワーメントが不可欠であるとアピールした。

プログラム災害における女性の役割の重要性＝織田由紀子（JAWW）

- ・フィリピンにおける大災害報告＝ジーナ・デラクルス(貧困者対策局次長)
- ・災害時の心のケアの重要性＝久宗百合子（日本YWCA）
- ・災害時の支援活動＝石渡幹夫（JICA/WB）
- ・災害チェックリストの普及を目指す＝別府充彦内閣府・審議官
- ・コーディネーター 平松昌子（国連NGO国内婦人委員会）

会場のハマーショルド講堂は定員160名。会場の設営などでBPWのメンバーやインターンが大活躍したことを付記したい。他に、BPW東京クラブの武井涼子さんが(女性たちが日本文化を支えた)というテーマでパラレルイベントを実施した。

第11回インターン派遣事業報告

ヤング委員長 村田美夏

国際委員長 花崎正子

1. 派遣メンバーの選出

今回11回目となる派遣事業だが、毎年新学期のころに告知を開始し、夏休み後の9月中旬で応募を締め切る。応募に際して、応募の理由、何を指すかの目的を日本語・英語によるショート・エッセイとして提出していただくが、今回の応募者は、長期・短期の差はあるがいずれも海外生活の経験を持ち、英語能力だけではなく目的意識も明確で、いずれも高ポイントを示した。

選考審査により6人をインターンとして内定したが、うち一人は就職活動にぶつかるとの理由で辞退したいとの連絡があり以下の5名が決定した。

家田菜穂子 名古屋大学大学院生命農学研究科博士課程後期在学中

大濱 彩花 オーダーメイド・ライフデザイン代表

金村 はや Goldsmiths University of London 大学院

小林 千紘 津田塾大学学芸学部国際関係学科3年

林 乙羽 English Japan 代表

2. 出発まで

選考を終了し結果の連絡を済ませたのちも、国連サイドあるいは、関連NGOの事業日程などが示されず、動き出すのは12月も半ばになった。

最近では登録に際し、登録料を支払うための口座を記入する必要があるなど、団体一括ではなく各自ですることが基本になっており、順次、参加者各位での手続きをお願いしていくことになる。BPWとしての説明会は年明けになった。CSW開会前の日曜に設定されるNGO向け説明会にはぜひ参加してほしいこと、そのためには土曜日中にNYに到着してほしいこと。種博は、できれば全員が同一のホテルで、国連まで徒歩圏内にあるところで調整することが望ましいなどのお願いをした。

3. インターンとBPWとの情報交換

NY入りして最初のミーティングは、土曜日の夕食をともにしながら、今後の活動などについて、情報を提供すると共に、それぞれ、初めて

の顔合わせの時間を過ごした。翌日の朝が早いことなどを確認して解散したが、この方式はこのところの提携となっている。
この他、期間中、1度か2度は、日本 BPW の役員が宿泊するホテルで夕食を持ち寄り、ミーティングをすることなども申し合わせた。

4. このプロジェクトだからできること

- ・ 日本政府代表部によるブリーフィングへの参加
- ・ 日本政府と NGO によるサイドイベントでのお手伝い
(聴取者とは違う体験も)
- ・ BPW International のレセプションへの参加
(パーティデビュー?)

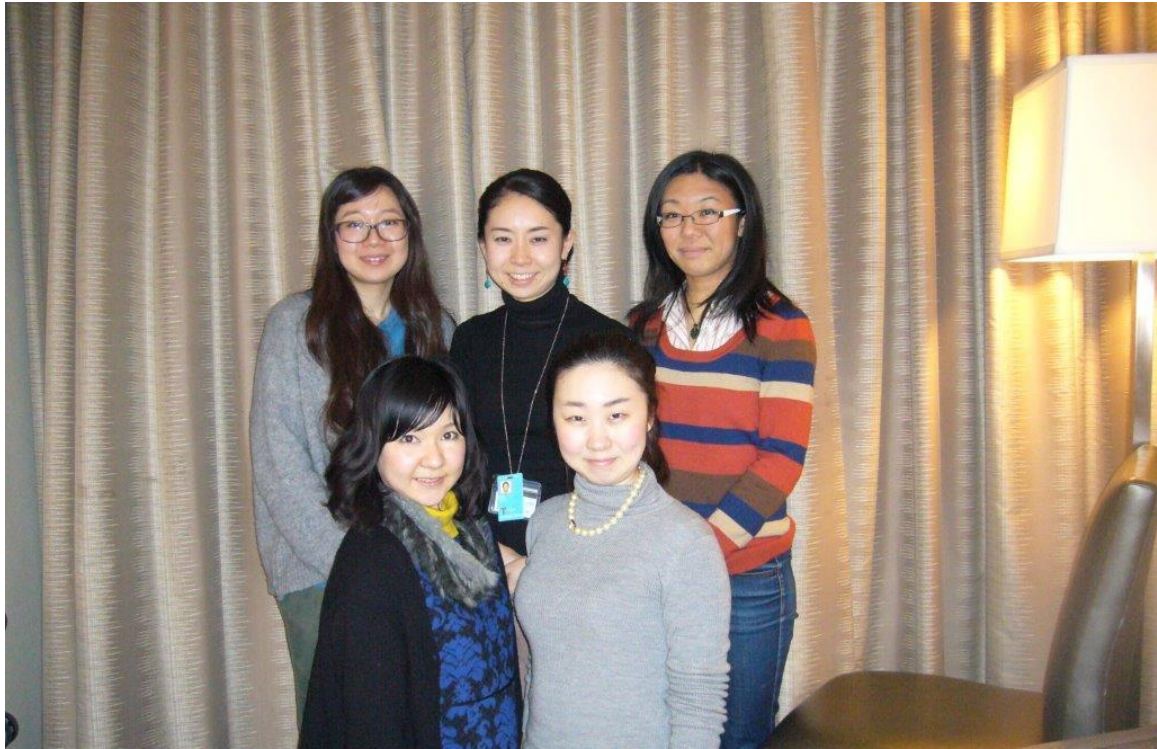
などがあり、夫々の参加をより実りあるものにするための説明も

5. 成果

ここだけで終わらないように、自分たちもイベントを持とう！と熱意が盛り上がったようだった。

そして、アンケートという一つの活動が果実を実らせた。





編集後記

読んで楽しい報告書にしようと写真を多めにしてみたのですが、全てをまとめる段階になると全ての位置がずれてしまって大変時間のかかる編集作業となりました。

そのつもりで、ぜひ楽しんで読んでいただけると嬉しいです。

なお この報告書のカラー版を日本BPWのホームページ（下記）にUPしています。こちらもどうぞご覧ください。

URL <http://www.bpw-japan.jp/>

林 乙羽



特定非営利活動法人日本 **BPW** 連合会

〒151-0052 東京都渋谷区代々木 2-21-11 婦選会館ビル 303

TEL 03-5304-7874 FAX 03-5304-7876

E-mail office@bpw-japan.jp

URL <http://www.bpw-japan.jp/>